

2014年7月18日

地域活性学会 離島振興部会シンポジウム「“しま資源”を活かした離島の活性化」開催報告

今瀬政司（長岡大学経済経営学部准教授、NPO法人市民活動情報センター代表理事）

- ・ 去る7月5日（土）に、地域活性学会の「離島振興部会」が、「“しま資源”を活かした離島の活性化」をテーマにして、公開シンポジウムを北海道の網走市で開催しました。
- ・ いま、離島の人々が主体性を持って内発的な振興活動を活発化させるとともに、離島どうしや、離島と本土間の連携の取組みを推進することが一層求められています。離島振興部会は、そうした取組みを全国で後押しするために、昨年2013年9月、各地離島の島民と島外協力者をメンバーにして、創設されたものです。
- ・ 今回の公開シンポジウムは、地域活性学会の第6回研究大会が、去る7月5日（土）と6日（日）の両日に、北海道網走市にある東京農業大学のオホーツクキャンパスで開催されるのに合わせて開催したものです。
- ・ 東京都伊豆七島の神津島と北海道の利尻島を事例に、「“しま資源”を活かした離島の活性化」について、離島の島民と島外協力者による実践活動と実態把握を踏まえた上で、今後の離島振興のあり方を議論しました。
- ・ シンポジウムは、コーディネーターを務めた長岡大学経済経営学部准教授でNPO法人市民活動情報センター代表理事の今瀬政司さんによる司会進行のもと、離島の島民の立場から、神津島郷（シマ）づくり研究会の事務局長である河合健一さんと、利尻町立博物館の学芸課長である西谷栄治さん、そして、島外協力者の立場から、内閣府の大臣官房審議官である館逸志さんと、松蔭大学教授でNPO法人観光文化研究所理事長の古賀学さんの4人がそれぞれ報告した後、議論が行われました。
- ・ 神津島郷（シマ）づくり研究会事務局長の河合健一さんからは、「山ん子」と「海ん子」の交流推進の取組みが報告されました。長野市の吉田小学校OBの「山ん子」と、神津島村の神津小学校OBの「海ん子」とが、かつて50年前に行っていた文通が縁で、平成18年に交流を再開しました。その交流の中から、神津島の名産である「あしたば」と、長野県の名産の「おやき」を融合させた、「あしたばおやき」を開発して、売り出しています。
- ・ 利尻町立博物館学芸課長の西谷栄治さんからは、島の歴史を現在に活かして、アメリカとの交流を進め、次代を担う若者を育てたり、文化遺産である麒麟獅子を活かして、鳥取の人々との交流を進めながら、新たな地域文化の創造を図っている取組みが紹介されました。麒麟獅子は、明治時代に鳥取から利尻島に渡ってきたもので、一度は途絶えたその麒麟獅子舞を、平成16年に地域の若手たちが復活させました。
- ・ 内閣府大臣官房審議官の館逸志さんからは、企業による地域活性化の取組みCSV活動として、淡路島や鳥取の大山、熱海の湯河原で行われている産業創造の事例が報告されました。
- ・ 松蔭大学教授の古賀学さんからは、新たに制定された離島振興法を踏まえて、これからの離島における観光振興のあり方について、事例報告や課題の提起がありました。
- ・ そして、4人の登壇者が報告した後、今後の「離島の活性化」に向けて、「しま資源を活用するための重要なポイントは何か」、また、「各地の離島どうしや、離島と本土各地との間において連携を進めていくためのポイントは何か」、などといった観点から、会場参加者を交えて、登壇者の間で議論が行われました。
- ・ 離島振興部会では、今後もこうしたシンポジウムを各地で開催し、離島の実態を適確に踏まえた調査研究、実践活動、政策提言などを運動体的に行って、実のある活性化に貢献したいと考えています。